

ガリレオサイエンス教室 ご報告シート



こんにちは。ガリレオサイエンス教室瀧口です。いつもお通いいただき、ありがとうございます。こちらのご報告シートは、2019年度の前期を区切りに作成いたしました。指導方針や、授業中の様子などのご報告をさせていただきます。長文となりますが、よろしくお付き合いください。

指導方針など想いの部分は変わっておりませんので、昨年度までのご報告と多々重複いたしますがご了承ください。

☆指導方針・代表の考え

ガリレオサイエンス教室は、理科実験教室です。ただ、理科実験を楽しくやって、楽しかったね、良かったね、と言って終わるための教室ではありません。

理科実験という体験活動を通じて、すべての人が「生きるって楽しい！」と感じながら自分らしくイキイキと豊かな人生を過ごせるようになることを目的に、活動しております。

『人生を自分らしく豊かに生きる力を育む』理科実験教室でございます。

一番大切にしているのは、「自分は、自分で、大丈夫。」という自信を得られるようにすることです。

一般的に道義的な言葉として、人にやさしくとか、環境にやさしくとか、みんな仲良くとか言います。周囲に気を配れる子が良い、と。もちろんそれは私も目指しているところでもあります。でも、だからこそ、だからこそまず、自分が自分を好きであることこそが重要であると考えています。自分を大切にできる。だから、人も大切にすることができる。自分を大切にできない人、自分なんてどうせ……と思っている人が、人を本当の意味で大切にできるわけがないからです。

失敗もたまにはしてしまうだろう。うまく



いかないこともある。でも、自分を信じて、努力すれば、今はできないことがあったとしても、必ずできる。やれる。仮にオリンピックで1位にはなれなくても、上達はする。そこまでの行程で、楽しさを、豊かさを感じられる。もっと言えば、上達すらしなくても OK。1位になるのは目標ではあるけれど、目的ではない。楽しんで豊かに生きること、それが目的である。そう思えるように。もちろん1位になれば嬉しいし努力はするけれど、結果がすべてではないと考えられる。取り組める。



自分を好きであり信じられることは、ものすごい強さを生みます。何にでも取り組むことができるようになります。

論理的思考力や、コミュニケーション能力、プレゼンテーション力や知識などは、手段・ツールであり、本質的なものではありません。まず、自分は大丈夫！ と思えているかどうか。その確信さえあれば、あとの必要な能力や知識は必要に応じて自分で努力して獲得することができますし、自分ですべての能力や知識を持ってなくても（というかすべての能力や知識を修めることはできませんが）、人と協力して補い合うことができるようになります。何かやりたいことができたときに、人と協力することをためらわなくなります。人とうまくやる方法すら、楽しみながら探すことができるようになります。人生は1人で生きるよりも、人と喜びも悲しみも分かち合っ生きていける方が豊かですよ。

ではどうやったらそんな、自分に自信のある人に育つの？ というと。必要なことは2つあります。

1つめは、親御さんも含めての他者からの愛を感じられる関わりです。

2つめは、自分自身の努力やチャレンジと、結果を振り返る経験です。

長くなりますが大切なことですのできちんと書きます。

愛を感じられる関わりとは、一言でいうと愛された経験です。

抱きしめてくれるとか、おはよう！ とあいさつしてくれるとか、料理を用意してくれるとか、しんどくても仕事をしてお金を稼いでくれる（それを恩着せがましくしない）とか、そんな経験です。



ただ、愛があっても伝え方に問題があると、愛されたように感じず逆効果だったりします。ですので愛を感じられる、としました。

愛しているがゆえに、と思っても「はやくしなさい！」とか「(責める口調で)なにやってんの!？」とか「勉強しなさい！」とか「はやく宿題しなさい！」という関わり方をしていると、関わられた方は、自分はダメなやつなんだ、、、という確信が深まっていきます。逆方向です。

「(9時までに教室に行きたいんだけど)もう8時40分だから、(時間がないから)急いでもらっていい？」とか「大丈夫？」とか「つまずいてる場所はどこ？」とか「宿題は何があるか見せてもらっていい？」などの、人格を認めつつやってほしいことを伝え、さらにできたら、やったことを認める。という声かけをすると良いです。



たとえば。学校で廊下を走っているお子さんがいるとして、それを見た先生の関わり方の例を出します。

ダメな先生（というか一般的な先生）の例：

「廊下は走らない！」と大きい声を出す。

お子さんがびっくりして歩き出しても、何も言わない。

良い先生（学校に数人いる尊敬される先生）の例：

「廊下は歩きましょう」と言う。普通はこれでお子さんは走るのをやめて歩きますが、聞こえていない場合は「廊下は歩いてください」ともう少し大きい声で言う。

お子さんが歩きだしたら、「そうです」と走るのをやめて歩き出したことに対して認める声かけをする。

「走らない」という否定的な声かけではなく「歩きましょう」という肯定的な声かけをまずする。その上で、してほしい行動をした後に放置するのではなく、「そうそう」などと正しい行動をしたことに対して承認の声かけをする。



行動を正してもらうための声かけは「^{ぜせい}是正」のフィードバックと言います。

正しい行動をしたあとにおこなう承認の声かけは「強化」のフィードバックと言います。

「是正」のフィードバックの方はよくしていると思います。いわゆる注意です。この注意の方法にも否定的な注意の方法と肯定的な注意の方法があります。肯定的な注意の方法を使います。(廊下は走らない！が否定的、廊下は歩きましょう。が肯定的。)



「そうです。やったね。できたね。いい調子だね。」などの強化のフィードバックの方は、私たち自身あまりされてこなかったものですので、していない人が多いと思います。しかし、これこそがちがいを生みます。これで良いんだ！ 自分はまちがってなかったんだ！ またやろう！ という気持ちになります。力が増します。

授業中騒がしくするお子さんがいるとして、そこでそのお子さんに「静かにしてね」とか「静かにしなさい」と声をかける（是正のフィードバック）のはあまり良くありません。騒がしくするお子さんは「注目されるのが好きだから」騒がしくしているので、逆効果になります。注意をされたということは先生が目自分に向けられたということですので、うれしくなりまたやりだします。本人も無自覚ですが。

それよりも、静かに先生の方を向いて話を聞いている他のお子さんに目を向けて、「〇〇くんはきちんとこちらを向いて、説明を聞いていますね。良い姿勢ですね」と声をかける（強化のフィードバック）方が良いです。先生が、騒いでいる自分ではなく、静かにしている子に注目していることを察すると、騒いでいるお子さんも姿勢を正しだします。そこですかさず「□□くんも良い姿勢ですね」と声をかけた方が、望ましい方向に行くようになります。長期的に聞くようになります。

1人しかいないならば、その子がたまたま静かにしているときに「静かにできてるね」と声をかけると、その行動をとる確率が上がります。

ちなみに成績優秀な子がずっと成績優秀なのは、この強化のフィードバック（いいねとかすごいねとか言われる）をされる機会が多いことも一因と考えられます。成績優秀だとみんなに認められたり表彰されたりして、これでいいんだ！ うれしい！ またやろう！ という機会が他の人よりも多くなるので。



成績優秀な子だけ、良いことをした子にだけしか認められないかということ実はそうでもなくて。うまく書けたとか入れられたとか薬品を決まった量はかかれたとか、なんでも認められる機会はありますので、ガリレオサイエンス教室では積極的に認める声かけをしています。

※「認める」と「ほめる」は違います。

「薬品を決まった量はかかれたね」が認める。(現実)

「(薬品を決まった量はかかれて) すごいね」がほめる。(評価)

です。

評価ばかりされていると周りの目を気にして自分のしたいことができない人間に育ちます。ですのでほめるときはプロセス(現実)も認めることも一緒にした方が良いです。基本は「認める」が良いです。

こうやって書くと、いやいや、そんなの自意識過剰の自己中心的人間になるんじゃないの? と思われるかもしれません。甘ったれが育つんじゃないの? と。

ちがいます。

自己中心的人間は、「満たされていない」ためになります。愛された経験が少ない、認められた経験が少ないために、なります。自分が本当には大切にないから、人も傷つけても別に構わないと感じます。どうでも良いと考えます。むしろ人が幸せであることを憎みます。自分は幸せでないのに、人が幸せであることが嫌なのです。



暴走族っていますよね。金曜日の夜くらいに騒音を鳴らしながら走るバイクや車。あれ、ご存知かもしれませんが、寂しいからやってるのです。愛されてこなかった。傷つけられてきた。自分なんて誰にも認められない。(と感じている。)だからせめて、自分に注目してほしい。自分を見てほしい! 自分は世間に傷つけられてきた。だから自分は世間の人を傷つける! 見てみてー! かまってかまってー! です。かわいそうな人なんです。

愛情を得られないから、せめて憎悪を求めているのです。嫌われてでも、自分に関心を向けて欲しい。なお、愛情の反対は、憎悪ではありません。無関心です。

かまってほしい、認めてほしい、注目してほしいなら近所のゴミひろいなどの社会貢献をすれば良いのにとおもいますが、それはしません。なぜならば、自分が嫌なことしかされてきていない社会に対して、嫌なことを返したくなるからです。嫌なことばかりされてきたのに、自分が良いことで返すと、負けたような気になるからです。

親の思う良いことをしないと認められなかったり（こんな成績で恥ずかしくないのか！とか）または何をしても認められなかった・罵倒されてきた経験があるため、親の無茶な希望に応え続けたり耐え続けたりできるパーフェクト超人以外は無気力になるか反抗するかしか生きる術がないのです。

これについてはその人がたまたま生まれついたときの環境で、その人自身にはどうしようもない部分があるので同情はしますし、なんとかしてあげたいところですが。

愛されてきた人は、愛されてきた確信があるからこそ、周りにも愛を返したくなります。愛を与えてくれた人たちに顔向けできないようなことはしなくなるのです。

甘ったれに育つような気がするかもしれませんが、まず十分に愛された経験がないと、人を愛せるようにはならないのです。（甘えさせる、と甘やかす、はまた違うのですがそれについては後ほどご説明いたします。）

続いて、自分に自信のある人に育つために必要なことの2つめ「自分自身の努力やチャレンジと、結果を振り返る経験」について説明いたします。

これは外部からの関わりではなく、本人自身の内的なことです。

自分で自分の行動に対して、充実感や満足感や達成感を得るという経験です。



たとえばジグソーパズルを完成させたとして、それ自体に何の意味もなくとも、心が満足しますよね。漢字が書けるようになった。日本の都道府県と県庁所在地が全部言えるようになった。ハンバーグがうまく作れるようになった。ゴルフでスコア100を切った。ピアノでトルコ行進曲が弾けるようになった。キーボードをブラインドタッチできるようになった。富士山に登頂した。絵を描けた。何の意味もないことでも、です。

劇的な結果があらわれなくても、やってみると進歩はします。昨日まではここまでしか弾けなかったけれど、今日はここまで弾けた。とか。最終結果も大切ですが、その過程も大切です。結果の評価ばかりされていると「うまくできないかもしれないことは、やりたくない」という人間になってしまいます。そうではなく「いきなりう



まくできるかどうかは分からないけれど、とりあえずやってみたら楽しいだろうし、やってるうちにうまくなるかもしれない。やってみよう」と思える方が、人生豊かになります。そう思えるには、いろいろなことに挑戦してみて、やってみて、失敗したり、成功したり、うまくいったり、わいわい楽しかったり、そういう経験を何度も何度もやって、結果がうまく出ていなかったとしても、振り返ってみてここまでうまくできたなあ、と自分に自信をつけていく。ああ、やれば、上達するんだなあ、と知る。やったら楽しいんだなあ、と心が理解する。

最初は周りからの「できたね」とか「がんばってるね」とかの声かけがあった方がやる気がでます。そのうち、周りの声がどうでも良くなってきます。自分で自分のがんばりを認められるようになってきます。

プロ野球のイチロー選手は、周りの声は気にしていないでしょう。もう何億円も稼いだので、お金のためにプレーしているわけでも無いでしょう。お金のためであれば、もうとっくに引退しているはずです。何度も何度も素振りして、走って、練習して、試合に臨んで、打ったり打たなかったり。それらすべてにおいて、充実感があるのでしょう。楽しいなのでしょう。人生そのものなのでしょう。



その基となるのは、やってみて、楽しかった。という体験なのだと思います。

感情は、知識に勝ります。

「勉強をたくさんして東大に入った方が、その後の人生はラクになる。」

そんなことは日本中全員が知っています。でも実際には、そこまで勉強する人は稀です。おかしいですね。勉強して良い成績を取った方が自分の人生にとって良いことは分かり切っているのに、勉強しない。

面倒くさい。嫌だ。やめたい。そういう感情の方が、勉強した方がトクという知識に勝ってしまうのです。



では、東大に行くくらい勉強する人は、どうしてそんなに勉強できるのでしょうか。

それは、問題を解けることが楽しかったり、自分で勉強方法を編み出すことそのも

のが面白かったり、東大へ行った後の目標があってワクワクしたり、好きな人と同じ大学に行くためにがんばったり。親にラクをさせてあげたかったり。単に「東大に行ったらその後の人生はラク」というだけではないところに動機づけがあります。

楽しさやワクワクといったプラスの感情が、めんどくさい等のマイナスの感情を超えたときに、人は行動します。このとき、知識上の損得は関係ありません。

「やろう！」と思えるかどうか。湧き上がる情動があるかどうか。その有無によって、行動が変わります。

言葉に表すとちっぽけなことですが、楽しかった、充実していたという体験が、人生をイキイキと過ごせる、「やろう！」と胸の奥から湧き出すすべての基になると考えます。ですのでガリレオサイエンス教室では、努力やチャレンジをしてみるということを大切にしています。まずはやってみる。ショーのように先生が見せるのではなくて、いろいろなことを自分で実際にやってみて、自分の心で感じるものを大切にしています。先生が説明を一方的にするのではなくて、自分の頭で考えたものを、自分の言葉で発表してもらいます。



これらによって、自分に自信を持ち、何にでもチャレンジできる心のありようになり、人生を自分らしく豊かに生きられる人の育成を目指しています。

他者との関わり方や、自分の感情をキャッチする方法、それを人に伝える方法、論理的な考え方、歴史やものごとの知識、目的と目標の明確化なども大切にしていますが、まずは「自分は自分でOK！ 自分のことを自分で認められる」が根幹です。

方針につきましては、以上です。

続きまして、授業中の様子などをご報告させていただきます。



☆全体の様子

全学年、楽しんで興味を持って取り組んでいます。低学年はにぎやかに、高学年は真剣に。自分で物が作れる・自分で調べることができる・自分で何かに触れることができる・自分たちで協力して家庭や学校ではなかなか出来ないことをできるのが嬉しいようです。授業と直接関係ないことをしてもそうそう叱られないところがまた居心地良いようです。

☆各学年の様子

●エジソンクラス（四条大宮・京都駅教室 年長）

すでに個性があります。静かなお子さん、やんちゃなお子さん、慎重派、ざっととりあえずやる、など。ただ、どのお子さんも指示を守って言われたことをきちっとやり、遊びながら学んでいます。たまにやんちゃが過ぎることがあるのですが、注意するとすぐに改めます。

世界のあらゆる出来事を全身で受け取ろうとしている感じがします。

遊んでいるということは、そのことについて積極的に学んでいるということでもあります。手ざわり、ぼたぼた落ちる感覚、こうやったらどうなるかな？ という好奇心を満たす、お子さん同士でコミュニケーションを取る。こちらが勝手に決めた内容をその通りにやるよりも、そういう自由にできる時間があって、知らず知らずのうちにいろいろなものの性質を学べる方がずっと有意義ですので、こちらは可能な限りしたいようにさせています。この時期はこのままたくさん遊んでほしいです。理科実験教室としては理科実験っぽいことや知識や考えることをさせた方がいいんじゃないかなんて思ってしまっているのですが（その方が保護者さん受けがいいので）、お子さんを見ていると今はそうではなくて、もっと単純に楽しむことが大切なのだろうと思います。ですので、一見すると「ただ遊んできただけじゃないの？」「うちの子わかってるの？」と思うこともあるかと思いますが、そのときのお子さんにとって最善の経験と思われることをしておりますのでご了承ください。



●コペルニクスクラス（四条大宮・京都駅教室 小1）

熱中して、自分のペースで取り組んでいます。オリジナルペンを作るような一つのことをやり遂げる実験を多く入れています。自分でやり遂げるという経験により、満足感、やりきった感があるようです。自由な発想で、思う存分にできる、試せるという楽しさを味わっているように感じます。で



きたら見せに来てくれます。

他のお子さんとコミュニケーションをとれるお子さんが多いです。もちろんゆずったりができるお子さんもいらっしゃるけれど、これから、というお子さんもいらっしゃいます。自分の感情を大事にするという経験が先に必要ですのでむやみにゆずらせたりはさせません。

●ガリレオクラス（四条大宮・京都駅教室 小2～小3）

自分で考えて、良いと思ったことをやってくれている感じです。勝手に好きなことをやるという感じではなく、考えて「こうしていい？」と聞いてくれます。たとえば、テーブルに新聞紙を敷いてねーと配っていると敷いたあたりで「セロテープで止めていい？」と聞いてくれますし、水や粉で汚れたら「これ、新聞紙変えていい？」と聞いて自分で取り替えてくれる人が増えました。ある程度の概要を伝えて、ではあとは自分たちでやってくださいと伝えるのですが、それを楽しんでいる感じです。



正解を求めるとい姿勢ではなく、現象を楽しんでいます。こうかなあという自分の考えをそのまま口にできます。まちがっていたらどうしよう、など考えません。すばらしい。

まだ単純なものの方がおもしろいようです。ビタミンCの量を1滴1滴調べてその結果をまとめるよりも、化石のレプリカを作る方が楽しい。まあ、少しずつですね。



お子さんに『今日どんなことをしたの?』ということと『それで、何が分かったの?』ということの2つを質問してあげてください。最初全然説明できないと思いますが、回数を重ねるごとに説明の仕方が分かってきてうまくってきますので。それこそが振り返りであり頭の中を整理して、人に説明をする練習になります。親御さんが自分の話を熱心に聞いてくれるというのはお子さんにとってとても嬉しいことですので、できるかぎり話をさえぎらずに聞いてあげてください。とはいえ説明するのが嫌になったらそれも問題ですので手加減しながらお願いします。うまく説明できていなくても「ふ～ん、そうなんだあ」と聞いてあげてください。まちがいの指摘は、しない方が良いでしょう。今の段階では、経験してきたことを一生懸命に言葉にしようとしています。それをさえぎったりバカにしたりはしないでください。そのまま聞いてください。

なお、『今日どうだった?』という質問をした場合、お子さんは『楽しかった』としか答えようがありませんのでご注意ください。

●パスカークラス（四条大宮・京都駅教室 小4）

技能が上がって、安全にやれるようになったな、と思います。アルコールランプやガスバーナー等。道具を使うために道具をつかうのではなく、実験の手段として道具を使えるようになった感じです。やれることが多くなり、全体として楽しそうな雰囲気の中、実験をしています。



我が出てきて、コミュニケーションのやり方が雑になったりもしています。学校の友達のようなコミュニケーション方法でまだ親しくないお子さんに冗談を言って本人は傷つける気は無いのに傷つけるのような。適宜指導しています。

かっこつけ始めるのか、予想と結果がちがったときに、予想を消すお子さんが出てきました。正解を求める感じです。まあそれも必要な発達段階の気もします。そんなことしなくて良いんだよと説明しています。

何のためにやっているのかを、トータルとしてまとめて考えられるお子さんは少ないです。今日はどんな実験をしたかな?という問いに対して「真空の実験をした」などは言えるのですが「真空にすると何が起こるのかを調べる実験をした」と言えるお子さんは少ないです。



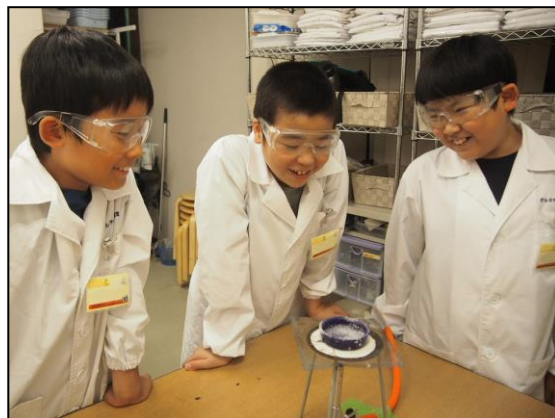
考えて答えを導き出す、ということに関しては、考えられる子は考えられますが、受け身の態勢の子も結構います。考える能力が無いのではなく、学校（や塾）で普段そうだから、という感じです。ただ、考えさせたら結構考えてました。自分で考えられる時間を充分に取ってあげる必要があるなあとこの学年では感じます。小2～小3くらいまではある程度反射神経で良いというか、直感であったり、言われたことを言われたとおりにするだけでも良いですが、小4くらいからは、自分は、考えたら、分かる。自分は、できる。と自分を信頼できるようになることが、その後の人生に大きく影響します。

●アインシュタインクラス（四条大宮・京都駅教室 小5）

チームで挑戦する課題を多く入れています。実験のやり方自体を決めてもらうというものです。

書いてあるその通りをするだけの場合、さすが5年生、できるようになっていました。自分たちで方法を考えて自分たちでやって、というものはまだ苦戦しています。苦戦しているけど、精一杯取り組もうとしています。

自分の意見を言ったりすることに慣れてきた印象です。「こうしたらどう？」みたいなことはチーム内でよく言います。言うのですが、その意見に対して、聞く側が「いい」のか「悪い」のか答えないまま進むことがよくあり、言った方は「いいの？」という顔をしている状況をよく見ます。



お子さんたちの課題への取り組み方を見ていると、実社会での、大人の問題点の縮小版のように見えてきます。今それやってみる場合じゃないよね。ということにこだわってやっているお子さん（本人はいたって真面目に）もいらっしゃるのですが、実際の会社でもそんなものなのだろうなと思います。全体を俯瞰して見て、最終目標が何だったかから逆算して考えることのむずかしさが見えてきます。ふりかえりの際に指摘したりしています。



●ホーキングクラス（四条大宮・京都駅教室 小6～中3）

あまり先生は口出しせずに、自分たちで実験を進めてもらっています。先生は、やりたいことの大枠と、ルールと、道具の使い方の説明をするくらいです。あとは危ないことが無いか見えています。

テキストに載せた内容は、グループで話し合っ



感じているところです。ガリレオ歴が長いお子さんほど、精神的なしびりが無くて自由にやっているようです。

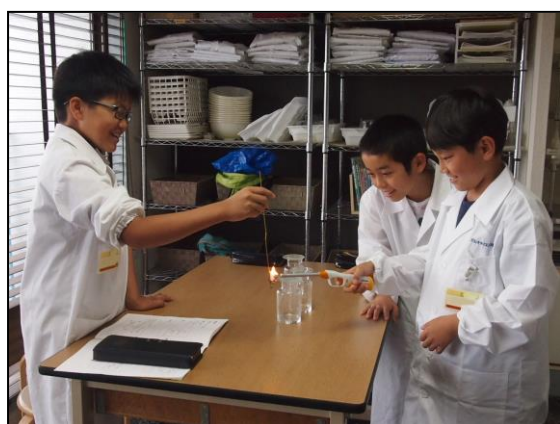
身のまわりにあるものでもどんな発明品でも、すべては人が、自分と同じ人間が、考えて、試して作っていると知る。自分でも作ってみて、何気ない作品でも、たとえば厚み、長さ、形、素材など、試行錯誤された結果であることを体感する。「こうしたい!」という思いがあって「それを実現するためにはどうしたら良いか」を考えて作っている。神様から答えを教えてもらったものではなくて、魔法でできているのでもなく、一つ一つの積み重ねでできていて、自分たちにもできることなんだ。自分にも世界は変えられるんだ。ということを伝えたくてホーキングクラスをやっております。そして自分が世界を変える側に回ってくれたら。

●三宮教室 チャレンジャー・プチサイエンティスト・ディスカバリー (小2～中3)

京都の各学年と同じで、実験を楽しんでやっています。興味を持って、考えて取り組む。自分たちに任せてもらえるのが好き。

そのうえで京都との違いを書きます。

と思いましたが今年はあまり京都駅教室のお子さんとのちがいは感じませんでした。去年までの「しつけられてるいい子ちゃん感」が減り、あまり委縮せずお子さんらしい好奇心で行動し、また、ちゃんと先生に丁寧語を使えるお子さんが増えた感じでした。三宮教室のみなさん、なにかされました?? 野外実習で、授業とは別に話しをするお子さんが増えたのも良い影響かもしれません。



☆再び全体のこと

【役割分担】

人と協力してグループとしてやる、ということには戸惑いがあるようです。「全体の作業のうち、誰がどの部分を担当するのか」という役割分担が苦手です。放っておくと、特定のお子さんばかりが作業するグループがあります。勝手に拗ねる子もいます。全然作業の進まないグループもあります。



これには複数の要因があります。

- ・ そもそも人と一緒に何かをする経験がない。
- ・ 自分がしたいと思うことを、人にゆずることができない。
- ・ 作業中、他の人にもものを頼むことができない。(全体のために、自分だけでなく他の人にも手伝ってほしいと思っても、どうしたら手伝ってもらえるのかがわからない。)
- ・ 単純に、何をしたら良いのかわからない。(他の人がやっていることを真似して手伝うことはできるが、自分で思いつくことができない。)
- ・ やりたい、やるべきことが分かっても「させてほしい」と言えない。
- ・ やるべきことが分かっても、しない。(すぐにゆずろうとする。目立つことをしたくない。自分でこれをやりたいと言えない。)

このような問題に対しては、大人が以下のように指導しています。

- ・ 「キミが実験をしたいのと同じように、となりの人もやりたいと思っているんだ。」ということを伝える。
- ・ 助けを求めているお子さんに「何かしてほしいと思ってることはある？」と聞き、グループの他のお子さんに知らせる。気付くようにする。
- ・ 「順番に作業して下さい。」とグループ全体に伝える。
- ・ 何をしたら良いのかわからないお子さんに対しては「テキスト(黒板・他のグループ)を見てみなよ」と、知るためのポイントを伝える。
- ・ すぐゆずろうとするお子さんに対しては「今度は1番にやったらいいよ。自己主張するのは悪いことじゃないよ」と伝える。
- ・ 大人による統制が必要と判断した場合は、大人が「キミがこれをやって」とグループ活動の中に入る。



- ・ 「今どんなことを感じてる？」と聞く。

学年が上がるにつれて、お互いに話し合い「譲り合う」「順番を守る」といったことができるグループが増えていきます。そういうグループは、大人が入らなくてもお子さんたち同士で上手に実験をすすめていっております。もちろん低学年でもできるグループもあります。グループ活動のときに生じる問題の多くは「悪気はなく、単純に接し方を知らないだけ」です。ですので、上記のような指導・経験を通して、少しずつグループ活動(他の人との関わり方)の方法を体得していったら欲しいと思っております。



自分の感情が今どうなっているのか(もやもやしている。嬉しい。不満がある。くやしい。楽しい。怒りがある。など)ということに注目するのは、大人でもほとんど意識していない人が多く、それゆえに不幸になっている人が多いです。自分の感情は今どうなっているのか。その原因は何か。どうしたいと思っているのか。それを行動に移すとして、障害は何か。相手がいるとして、その相手は自分の意見や要望を聞いてくれるのか聞いてくれないのか。言ったら単純に気づいてないだけで聞いてくれることも多いけれど、もし聞いてくれないとしたら、その他の人(ここでは先生が主)に助けは求められないかどうか。そんなことを大切にしながら指導しています。

【もめごとについて】

最近あんまりないですが、実験中にケンカが見られることもあります。

どのお子さんも「自分は正義の人だし、まちがったことはしたくない。自分からすすんで攻撃することは絶対に無い!」と思っています。そしてそれは、その通りです。進んで人を傷つけるお子さんはいらっしゃいません。相手が悪いと思っています。

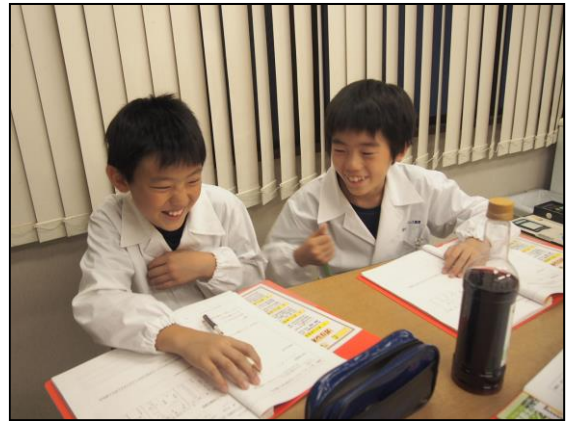
ただ、ケンカの原因の最初はすべて、「そんなつもりはなく、相手への悪意があったわけではなく、悪気なく迷惑をかけてしまっていた。もしくはただの勘違い。」です。それを、対処する方法が分からずに暴力に訴えた結果、ケンカになります。



お子さん同士で話し合いができないためにケンカが起こっていますので、アシスタントや講師が、お互いの言い分を引き出すことをしています。お互いの言い分をお互いが聞きます。誤解や配慮不足であることが分かると、どのお子さんもお互いに謝っ

てお互いに許すことができます。

ごくまれに、勘違いしたままで、許すことができないお子さんもいらっしゃいます。相手が悪いのだから、自分の行動は正しいと信じているお子さんも。本当は相手がどうこうの問題ではなく、自分の心が空虚だから、人を攻撃することで満たしたいのだということが認められないお子さんも。大人でも大勢いますね。



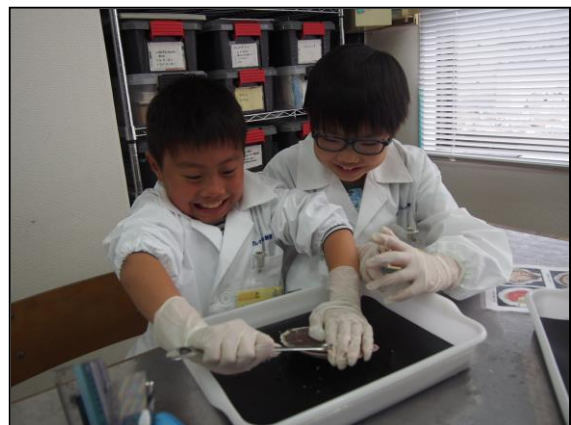
その気持ちは認めます。許したくないんだねと。

それは受け止めた上で「許せない気持ちを持つのはOKですが、でも、人を傷つけないでください。いやなことがあったら、何がいやなのかを相手に口で伝えてください。それでもダメな場合は先生を呼んでください。人を傷つける行為を続けたとして、その行きつく世界はどんな世界ですか？」と声をかけます。そのお子さんの子育て環境に問題があるかもと判断される場合は、親御さんに相談します。うちにお子さんを預けてくださる親御さんは皆お子さんの幸せを願っておられますので、単なる接し方の問題か、お子さん本人の生まれ持ったの気質のどちらかです。

「ケンカはやめなさい」と無理矢理止めて無理矢理謝らせて終わるのではなく、原因はなんだったかを話して探り、お互い許す。許せない場合も、何が許せないのか。自分は何に怒っていて、気持ちを受け入れてもらって、そういう場合はどうしたらいいのかわかる。こういう経験が、話合いの大切さの実感、人間への理解と信頼につながっていくものと信じています。

大人もこういう指導をされたことないので、下手な人が多いです。自分が何を考えていて何に不満を思っていてどうしてほしいのかを人に伝えることができない。勝手に不満を貯めて、嫌って、離れていく。心の中で悪態だけついて、でもそれを伝えない。

または伝えられても、喧嘩腰で伝えてしまい、無意味に険悪にさせて事態をさらに悪くする。



そうではなくて、自分はどう感じているかをキャッチして、自分の心も相手の心も気づかいながら、でも率直に対等に伝えていくという心の持ちようになれるよう、指導しています。(アサーティブと言います。)

【遠慮について】

イヤなことがあったりやりたいことがあったりするときに、他のお子さんに遠慮して「いい」と言うお子さんに対しても指導しています。

何か利害が衝突する場面有的时候に、自分が我慢すれば良いと判断する人がお子さんに限らず日本人に多いのですが、その弊害をお伝えします。

イヤなことがあったら、言ってください。

たとえば1つしかないものがあるとして、それを自分は欲しいのに、他の人が欲しがったらゆずる人がいます。何も言わなかったり、いいよ、もらって、と言ったりして。本当は欲しいのに。

本当に心からゆずってもいいと思ったならよいです。でもそうではなくて、いい人に見られたかったり、衝突をさけるためであったり、遠慮してであったら、ダメです。言ってください。



どうしてかという、その場合、ゆずることで不満がたまるからです。不幸になるからです。

あれ欲しかったのになーとか後で心の中で思ったり、家で家族に不満をぶついたり。言ってくれないと、あなたの心の中は他人には分かりません。そんな不満をためてるなんて知らないから、悪気なくもらいます。自分にとってそれほど欲しくないものでも、誰ももらわないならもらおうかという程度のこともあります。どちらもゆずれないときは交渉してジャンケンでもして決めればあとくされ無いのに、勝手にゆずっておきながら勝手に不満をためて勝手に不幸になるなんて、誰も幸せにしない行為です。

私瀧口は、人が不幸になるのは、イヤです。自分が不幸になることは他人には関係ないと思うかもしれませんが、ちがいます。あなたが不幸になることは、私にとってイヤなことなのです。それは私にとって、不幸なことなのです。あなたはどうか？他の人が幸せだろうが不幸だろうがどうだろうがどうでもいいですか？可能であるならば、人も幸せであることを望みますよね。だから、ちゃんと自分の希望を主張して欲しいのです。(ヤクザやサイコパスなど、他人が不幸でもどうでもいい人がいるのも現実ですが。)



【情報の整理について】

「情報の整理」も、多くのお子さんが苦手としています。複数のものを調べる実験の後に「どういう結果になったの？」と聞くと、同じグループなのにちがう答えが返ってきたりします。(ばらばらで良い場合もあります。)

原因は以下のものと考えられます。

- ・ 作業そのものに夢中になって、結果の記入をせずに進めてしまう。
- ・ テーブルに無秩序にものを置いてしまい、必要な結果がどれだったか分からなくなってしまいます。
- ・ 結果をグループで共有しない。(記録係がいても、情報の伝達がうまくできない。)



上記のような問題に対し、授業を進める先生は以下のように指導しています。

- ・ 実験の目的は何で、そのためにどんな作業をしてもらうのかを、明確に伝える。理解していないようであれば、その都度繰り返し説明する。
- ・ 実験の結果は、実験後すぐに記入するように伝える。
- ・ 「どうしたら後から見たときに分かりやすくなる？」と質問する。
- ・ 記録では横着をしないように伝える。(ときどき○×だけ書いて満足していることがあります。○×を書くなら、何だったら○で何だったら×なのかを、余白に明確に書いてもらいます。)
- ・ 結果をばらばらに書いているグループには、大人が入って「これはどうだったの？」と全員に確認する。記録係がいる場合は、記録係から説明してもらう。

その後、まとめたり発表をしたりといった段階に進みますが、まずは情報の整理が第一です。机上のみであればかんたんにできることでも、実際に実験道具があって、したことをその場で記入するというのは慣れないと難しいようです。すべては経験・トレーニングであると思いますので、実験を楽しみつつこういった力もつけていきたいと思います。

とは言え、強制するとせっかくの興味・関心が薄れますので、お子さんに合ったペースで、とも思っております。



実験の結果が、予期したものとはちがうことがときどきあります。たとえば赤くな

るはずのものが、青くなるなどです。

実験をした。その結果こうなった。ならばその実験の結果は、間違いというものはありません。それはそのままOKです。

その上で「理論上はこうなるはずだったのだけど、今は結果がちがったね。どうしてだろうね？」という話をします。何らかの要因（実験の途中の操作が正しくなかった等）によって結果がちがったものになってしまっているのかもしれませんが、そこは考えてもらいます。どうやってもどう工夫しても同じ実験の結果がでるのであれば、もしかしたらそれは世紀の大発見かもしれません。

お子さんのテキストの書き込みが、解説ページの解説とはちがっていることがままありますが、ご了承ください。理論の話もして結果の話もします。むしろそれが一つの学びであることもあります。

【学校や塾での勉強に役立てたい】

サイエンス教室での知識を学校や塾での勉強に役立てたい、とお考えの方のためにご説明いたします。知識の定着という面では、実験の最後にまとめというものをいたしますが、2時間～3時間の実験の全ての知識を覚えるためのテストなどはしておりません。

（必要なことは教えますし、1度で覚えるお子さんもいらっしゃいますが。）ただ、サイエンス教室を経験し、中学受験をしたお子さんの話を聞くと、学校や塾でサイエンス教室でやった実験が出てきたときに「あ、これやったな」というところから来る精神的余裕と「そういえばあのとき、こうだったな」と、一度学んだ・体験したことによって親しみやすく、覚えやすかったり理解しやすくなったりしたようです。



【やっていいの？】

実験中、お子さんからの「これやっていいの？」「始めていいの？」という声をよく聞きます。「これをしてください。」「始めてください。」と伝えているにも関わらず、です。

どうやら、先生の言葉を聞いていないのではなく、そして先生の言葉を理解していないのではなく、「本当にやっていいの？」「やったら怒られるんじゃないの？」という感覚があるようです。



家では時間や場所、設備的な制約があってもさせてあげられるのがサイエンス教室の良いところですので、どんなことでも「失敗してもOK」というスタンスで貫こうと思っています。これはガリレオサイエンス教室のスタッフ全員、そうであるように伝えています。そしてお子さんには何かをやる前に「やったらどうなるかを考えること」「後始末は自分ですること」も伝えています。自分は大丈夫。自信を持って行動できる。自分は受け入れられているんだ。という自己肯定につながるように、お手伝いが出来たらと思います。

☆ここから業務連絡です。

【遅刻について】

数年前より、授業開始時間の5分前までに来られるご家庭が増えました。ありがとうございます。うれしく思っています。このままお願いいたします。

開始時間の2分前に入って来られるお子さんは、白衣を着たりしていると時間ぴったりに間は合っておりませんのでご承知おきください。3分前の子で急げば間に合う、4分前の子で普通に間に合う、くらいです。



なお、遅刻されるとものすごく迷惑ですので、何度も遅刻されるお子さんのご家庭は出入り禁止にしますのでご了承ください。

実験教室の場合、授業の最初に今日の実験のねらいや意義を説明します。大枠を理解してから、実験に取りかかります。実験上の注意や道具の使い方、火や刃物など安全管理の指導も最初にします。遅刻してきてそれを聞かずに周りのお子さんを見ながらやっても危険ですし無意味です。何のためにやってるのか分からず作業だけやる人です。仕方が無いので、みんなにした説明と同じ説明をもう一度そのお子さん1人のためにすることになります。意味のない手間ですし、その間、他のお子さんたち全員の時間をうばうことになります。

私そういう「正直な人や誠実な人が損すること」がものすごく嫌いです。「正直な人や誠実な人こそが得をする世の中を作りたい」と思っています。ですので、遅刻を何度もする方には辞めていただきます。



【授業料の毎月払いについて】

授業料を毎月払いにされる方で、前月の25日までに支払いをされない方がいらっしゃいます。この方は、至急改めてください。事務作業が煩雑になりますので、などの問題ではなく、約束事だからです。

人間ですので忘れることもあります。そういう場合は、すいません忘れてました〇〇日に振り込みます、というご連絡をください。電話でもメールでも結構です。怒りませんので。

どうしても忘れてしまうのであれば、6か月ごとにお支払いください。

約束を守らない保護者さんのお子さんを、私は真剣に命を懸けて見ることはできません。よろしくお願いします。

すべての人が、幸せに生きていける世の中を作りたい。すべての人が、自分のことも他人のことも大切にできて、自分で考えて行動できるようになれば、そんな世の中が実現できる。そう考え、1つの方法として、理科実験を用いた教育をしています。約束を守るというのは、自分と他人を大切にするための大切な行動・精神の1つとして、お子さんにお伝えしたいことです。



【持ち物について】

授業の際には以下のものをご持参ください。

- ・白衣（初回時お渡し）
- ・名札（初回時お渡し）
- ・ファイル（初回時お渡し）
- ・筆記用具
- ・ハンカチまたはハンドタオル
- ・お茶（ジュースやスポーツドリンクは不可。お茶と水のみとさせていただきます。）
- ・上履き（四条大宮教室・三宮教室）

忘れ物をしてはいけない理由は……書くまでもないかもしれませんが、結局は忘れ物をすることは自分を貶めるためです。

お子さんが胸を張って生きていけるように、忘れ物がないようにしてあげてください。



【上履きについて】

上履きは、かかとのあるものでお願いいたします。スリッパはおやめください。また、クロックスなどの表面に穴やすきまがあるものもおやめください。

火や薬品が足元に落ちたときに、とっさに逃げられるようにするためと、万一クツにかかったときにもきちんと足を守るためです。運動靴やスクールシューズ等、かかとがありかつ穴などのないものでお願いいたします。



【おやつについて】

おやつの持ち込みは、いついかなるときも禁止です。

【軽食について】

平日夕方の授業のときのみ、休憩時におにぎりやパンなどの軽食を食べるのはOKです。土日は軽食も不可です。

なんらかの事情で必要な場合は、お知らせください。

【ゲーム機等について】

学習の場です。気の逸れるものの持ち込みは禁止いたします。

【お車での送迎について】

一昨年のことですが、四条大宮教室で、近隣の住人の方からご注意を受けました。北隣の駐車場の車の出入りができないと。その方は駐車場のまさに出入口をふさがれてしまい、出られなくてその駐車場の出入り口に停めていた車の人に注意をし、その後私のところに来られたそうです。

出入口をふさがれたのは初めてだが、前後に停まっているだけでも交通量が多い道路で出るのがむずかしく、かなりストレスになるから規制してほしいとのことでした。

教室専用の駐車場を借りることも検討しましたが、十分な数借りるとなると授業料の値上げにつながります。お迎え1回のコインパーキングの駐車料金は30分で200円～300円ですが、それよりは確実に高くつきます。これでは意味がありませんので、専用の駐車場を借りることはいたしません。

お手数ですが、駐車の場合はコインパーキ



ングを、停車の場合は四条大宮駅のロータリー等をご利用ください。

もしくは、授業終了時刻ごろに待ち合わせるのではなく、授業終了時刻の10分後などに待ち合わせをして、一瞬で乗れるようお願いいたします。

お父様とお母様とでお迎えに来られて、お母様が授業終了時刻ごろに5階の教室の方にお迎えをし、お父様が下で停車して待っているという場合でも、お車はいったん移動をお願いいたします。人が乗っていてすぐ動きます！ という状態でも、お車はいったん別の場所への移動をお願いいたします。警察への対策のお話ではないのです。近隣の住民の方が迷惑だと言っているのです。私ももしその環境なら迷惑だなと思います。お母様がお子様と合流したのちに連絡を取り、待ち合わせをお願いいたします。



京都駅教室と三宮教室の方も、今のところ苦情は来ておりませんが、四条大宮教室と同様に乗り降りを別の場所でおこなうか、一瞬でできるようにお願いいたします。



